



原因を正せば、 ガンは治せる

病名が結果としたら、 その原因は必ずある

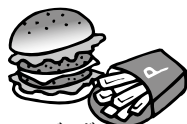
ある結果が出現した時、必ず原因が存在します。病気という結果も正に原因があつて出現します。では、病気の原因は何でしょうか。『病気にならない人は知っている』（幻冬舎刊）の著者ケビン・トルドー氏は、以下の4つしかないと述べています。

①毒物摂取 ②ある栄養素の不足 ③電磁波 ④過度のストレス。これは結論だけをいえば、正にその通りなのです。この①毒物摂取をみて、「人間はわざわざ毒を食べる人などいない」な

トランス脂肪酸も毒性が高く、発ガンの疑いがある



マーガリン



ハンバーガー
フライドポテト



ドーナツ
クッキー



菓子パン



ピザ



ケーキ アイスクリーム

健康を害す「トランス脂肪酸」は、マーガリン、ショートニング、加工油脂、ファットスプレッドとして加工食品に含まれている。

どと言いつつ人がいるかもしれませんが。そういう人は、食品業界のカラクリを少しも判つてない人です。

例えば、トランス脂肪酸の多い「マーガリン」。昔は植物油だからというだけで、バターに代わってどれだけの人が食して来たか計り知れません。しかし、健康を害す可能性が指摘され、デンマークでは、いち早く食品への含有量の上限を規制し、法律でマーガリンなどに含まれているトランス型油の一定量以上の販売を禁止したのです。このトランス型油が身体に悪い影響があるということは今や常識になってきました。勿論、これに反論もありますが、私としては少なくとも過度の摂取は差し控えるべきだと思います。

トランス型油は、脂肪酸のもっている役割を全く果たせないため、健康上、様々な問題が生じるのです。このトランス型油は、ガンや心臓病だけでなく、慢性病全般に関わっていることが指摘されています。しかし、日本では未だに販売され、食パン、カップラーメン、ケーキ用小麦粉、冷凍チキン、パウンドケーキ、コーヒーフレッシュなど様々な食品に使われています。

このトランス型油が体内に蓄積されれば、毒にならないとも限りません。また、お惣菜屋のフライや天ぶらの油は、何度も使われているのではないのでしょうか？ もし、何日も使い続けているとしたら、油は必ず酸化している筈です。揚げたてでも酸化した天ぶら、フライなのです。酸化物を食すということは、健康に有害なことはいくらでもありません。

ポテトチップスは、イギリスの調査ではアクリルアミドという、大変有害な物質が検出される事がよくあると言われています。アクリルアミドは、ガンを起こす化学物質の2位にランクされる程の毒物です。じゃが芋を高熱で揚げると、こんなものが出現してくるのです。

添加物や残留農薬にいたっては想像もつかない程、私たちは身体に取り込んでいます。

この食品添加物は、年間8kgも蓄積していると言われています。この毒が積もり積もった挙げ句、染色体やホルモン分泌を攪乱します。あるいは遺伝子を損傷し、ガン抑制遺

伝子までを傷つけているのです。こうして私たちは、発病してゆくのです。

「毒物摂取」など、

4つの悪癖を解除する

では、いったいどうすれば良いのか？ その答えは明白、まず原因を解除することに尽きます。

第1に①「毒物摂取」は極力避ける。まず、ここから出発です。

病気を引き起こす大原因をなるべく解除すること。これが予防のスタートとなります。

②「ある栄養素の不足」ということは、飽食の時代と言われる今日、実は**栄養素が偏っている人が実に多い**といえます。

人間は、9つの栄養素を上手に摂らないと生きていけない。よく医師は「バランスよく食事を摂れば、何を食べてもよいですよ」などといいます。が、栄養学をあまり知らない医師のいうバランスとは一体何でしょう？ 病院の入院食を見たらいい。とてもバランスが取れてとは思えない所が多い。また、このような入院食を美味しいと思う人も誰もいないでしょう。その証拠に医師は、自分の病院の入院食を食べない人がほとんどでしょう。

生野菜がほとんどない（酵素なし）！ 油に気を使っていない（酸化または質が悪い）！
残留農薬・硝酸態窒素漬けの農産物！ ビタミン・ミネラルが枯渇した野菜！ 食物繊維の
不足！ このような入院食が多くありませんか？

これからの時代は、本当の意味でのバランスの取れた栄養摂取が望まれる時代ですが、こ
うした入院食では、今日、必要な栄養素の摂取はあまり期待できません。これでは元気が湧
いてくる筈もなく、治るものも治りません。

西洋医学は、薬の使い方ばかりを勉強する医学であり、栄養学などあまり教えません。そ
れゆえ医師に栄養のことをいくら聞いても、的を得た答えはかえってきません。

このような栄養学を無視したカロリー中心の食生活を続けたとしたら、当然何らかの病気
は、確実に起こってきます。足りない栄養素が多いからです。

③「電磁波」の影響は、人にはあまりないように感じられると思われませんが、実は意外な
ところで大変被爆しています。それは病院内です。被爆を起す悪しき2大媒体は、CT写真、
次に造影剤による腹部透視写真です。ある調査機関では、CT（コンピュータ断層撮影）
1回で、人間の寿命は150日も縮まると報告されています。それは当然です。大変な被爆
量だからです。

ニューサイエンティスト07年5月号によりますと、CT全身撮影を行った場合、レントゲン写真1枚の被爆量の500倍であり、広島原爆投下の爆心地から2・4キロメートル離れたところにいた人が受ける被爆量に、また、部分CT撮影でも1枚のレントゲン写真の50から200倍に匹敵するということです。

私の知っているある患者は、ある時、人間ドックでCTを撮ったら、肝に異常な影が見つかりました。それが何か判らないために、何と1カ月に1回CTを毎月撮り続けたといいます。8カ月連続して毎月撮った後、体調が悪くなり、検査をしたら急性骨髄性白血病になっていたのです（ちなみに肝はただの良性腫瘍だった）。

1カ月に1回毎月CT検査を行うことは危険きわまることです。しかし、CTがこれ程恐いものだと誰も知りません。

病院でCTを行うなら、絶対数カ月に1回とすべきだと思います。次の造影剤による腹部透視バリウム造影はもつと悪い。造影剤透視撮影を行うと寿命は、1年半も縮まると報告されているほどです。

電気毛布、電気カーペットの電磁波も人間には大変有害です。アメリカのサビッツ博士は、1990年に次のように述べています。「夜間8時間以上電気毛布を使用している人は、そ

うでない人より白血病に10・8倍、脳腫瘍に4・6倍もかかりやすい」と。

今日、1億人が使用する携帯電話から発せられるマイクロ波も心配です。

④「過度のストレス」は、言うに及ばず、交感神経過多となります。安保徹教授の『免疫革命』で指摘されるように、過度のストレスは自律神経を狂わせ、免疫系やホルモン系、ホメオスタシス（恒常性）に異常をきたします。また、ストレスで発生する活性酸素に細胞膜が攻撃に晒され、慢性病の原因となってしまう。

このような原因は、できるだけ解除しなくてはなりません。原因を解除しなくてはならない理由は、なってからでは治療が難しい病気が多いからです。とくにガンの場合、予防に勝る治療はないのです。原因解除が病氣治し、ガン予防の第1ステップなのです。

ガンになりそうな悪い食生活と ライフスタイルの番付

次にアメリカの発表などを参考に日本人に合ったガンにならない食物と、ガンになりそうな食物や食生活を考えていきたいと思います。その裏づけは、酵素栄養学の考えが中心です。代謝酵素が不足すると代謝が悪くなり、その結果ガンになるといえるのです。そして、代謝

ガンになりそうな食生活とライフスタイル番付

| 東 | | 西 |
|----------------|-----|-------------------|
| タバコ | 横 綱 | シヨ糖(白砂糖)の過食 |
| 酸化した油脂 | 大 関 | (ある種の)西洋化学薬剤の過剰摂取 |
| トランス型油脂 | 関 脇 | 加熱調理オンリーの食生活 |
| 高脂肪食生活 | 小 結 | 低(無)繊維食 |
| 高タンパク食生活 | 前頭1 | 過食(食べ過ぎ) |
| 毒性重金属摂取 | 前頭2 | 電磁波の被曝 |
| 夜食 | 前頭3 | 極端な偏食(栄養不足) |
| アルコールの過剰摂取 | 前頭4 | 硝酸態窒素 |
| リノール酸過多の食事 | 前頭5 | 残留農薬汚染食品 |
| 肥満 | 前頭6 | 強いストレス |
| 食べてすぐ寝る | 前頭7 | 電子レンジの多用 |
| 水道水使用 | 前頭8 | 毒性添加物過多食 |
| 運動不足と陽に当たらない生活 | 前頭9 | 塩分摂取が過剰な食生活 |

タバコ、シヨ糖の過食、トランス型油脂の摂取などが発ガンを招く。

酵素の不足の根本は、消化がうまくいかないことによる消化酵素の過剰消費があげられます。

この番付は、あくまで私の作ったもので、異論があるかと思われませんが、酵素栄養学からの考えでは、当然な番付表です。もちろん、1つだけという因子よりこれらの複合によってガンが起きやすくなるのは当然といえます。

特にタバコとシヨ糖、アルコールの組み合わせは、発ガンする確率が大幅に高くなります。今の時代は、「飽」食の時代であり、かつ本当にアンバランスな食生活をしている人だらけです。やたらと肉やハム、乳脂肪製品、ケーキ類を食べ、野菜を摂らないという人が大変多く見受けられます。

一見、食は満たされているように見えます。

しかし、本当の意味での栄養摂取はなされていない人ばかりです。しかも薬漬けでは毒の上塗り、ガン患者が増えるのも当然といわねばなりません。

番付にあるような悪しき食物や食生活、生活因子は、やはりガン（病氣）の最大の原因なのです。極力摂らないようにし、ライフスタイルを改善しなくてはなりません。ガン予防もガン治療も、こういった原因の解除がスタートの第一歩です。

さて、それではその中で悪癖となる因子が何ゆえいけないのかを解説したいと思います。その薬の害を述べる前に西洋医療のシステムを簡単に述べたいと思います。

西洋医療の欠点と長所……………

西洋医療のシステムとは、簡単です。「病名診断そして治療」ただそれだけです。それが悪いの？と思われる人も多いことでしょう。実は、このシステムは欠点だらけなのです。まず長所を述べると次のようなことです。

- (1) 検査法がしっかりしており、今どこに病気があるか、これが何の病気が判る。
- (2) 手術法がしっかりしている。手術の必要な人に対しては手術が有効となる。
- (3) 消毒法がしっかりしている。
- (4) 救急に強い。今死ぬかもしれない緊急の時に強い。
- (5) 急性の病気に強い。

こういった長所は、西洋医療の優れた点です。交通事故にあつた時などの緊急処置は、まさに西

洋医療様々なことが良くあります。命を救われた方もおられると思います。しかし、問題は慢性病の治療や、急性期の慢性期の治療です。そして、進行した場合のガン治療法です。これは、ほとんどお手上げと言っているのではないのでしょうか？ とくにガンに関しては、全く問題があると思えてなりません。

では、どうしてでしょうか？ その理由は2つあります。

1つは、対症療法による薬（化学薬剤）潰け治療なこと

2つ目は、対症療法が根本の原因を少しも治していないこと

この2つが大変問題なのです。検査は、私は良いとは思いますが（しかしそんなに頻繁にするものではない）。一応病名がはつきりすることは、安心感につながるからです。

問題は化学薬剤の投与です。私は、この化学薬剤の投与は何ゆえしなくてはいけないのか？ 大

変疑問を抱いています。

西洋化学薬剤には 副作用がつきまとう

不名誉番付の大関のランクでは、「ある種の薬」と書きましたが、薬（化学薬剤）は、どんなものでも長く飲み続けて良いものでは決してありません。薬は人間にとって異物です。

では、何ゆえ西洋化学薬剤がいけないのでしょうか？

西洋の化学薬剤（以下薬）は、ほとんどが化学式で出来た純粹（ピュアー）な構造式をしています。この純粹（ピュアー）な構造式の塊が薬なのですが、ということは亀の甲で出来た、これ以上分解されない最小分子のものばかりということなのです。

そのため、葉が体に入ると極めて強く反応します。効果が明らかにあり、強く効くことも間違いありません。しかし、問題はその後です。

薬を飲んだらどうなるか？

- 症状がすぐ改善
- 効かないこともある
- 免疫が落ちる（折角、治ろうとしている体の修復の芽をつむもの）
- 副作用が出やすい（特にアレルギー）
- 長く続けると副作用は強くなる
- 長く続けると効かなくなることが多い
- ある種のビタミン、ミネラルが消費し、酵素は無駄つかいされる
- 長く続けると余病（新しい違った病気）が出やすい
- 長く続けると短命となる（葉がからだの酵素を減らすため）

実は薬を飲むということは、こういつたことが起る可能性があるのです。

では、どうして薬を飲むと、こういうことが起こりやすいのでしょうか？

その理由は、まず薬が体にとつて異物であるからに他なりません。異物ということを通つた視点で考えると良く判ります。

「赤ちゃんで生まれた時に体に存在しなかったもの」。それが異物ということなのです。

一方、良いサプリメントは、「赤ちゃんで生まれた時に体にあつたものの中で、不足しがちか毎日摂らねばならないもの」と定義されます。サプリメントは、元々体に存在していた栄養素を補うものです。それゆえ、副作用は、本当は出ないか出にくいものなのです。もしサプリメントで副作用が出るなら、そのサプリメントは質の悪いものといえます。質の悪いサプリメントは次のようなものです。

●酸化しているもの

●人工物の多い無機的な場合

こういつた質の悪いサプリメントは、副作用が出ますので質を選んでほしいと思います。

しかし、質の良いサプリメントは、本質的には病気を良くする力は極めて強いといえます。そして、総合的には良いサプリメントと薬では、副作用の質も量も比較になりません。

異物である薬は体に入り、異物としての反応が必ず出ます。もしすぐ出ないなら、いつかは出現するでしょう。なぜなら、人間は異物が入ると、排除しようという働きが起るからです。飲み続けると生態系のホメオスタシス（恒常性）は崩されていき、いつの日か新たな病気が起るようになります。人間は異物を摂って良い事はひとつもないのです。

もう1つ、この異物である薬がいけない理由があります。その理由は、これら薬は、根本的な大原因を治すものではなくないということですよ！ 根本的な大原因は、後述しますが、そんなことはお構いなしの対症療法が薬です。一時的にもし良くなったとしても、後々のリバウンド（大きく悪化）は免れません。その時、治ろうとする体の修復力（芽）、また自然治癒力を無くしてしまうことが大問題なのです。

こういったことから薬は長期には決して飲むべきものではないのです。また、短期でも飲まない方が本当は良いのです。